

保護者・学生のためのより詳しい説明

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

7/10

論述ブースト No.6

社会医学を論じる —— 公衆衛生・予防医学の視点を答案に組み込む

★ 清光学院の講師は、大学教員としてこれまでに皆さんのお子さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何十年も採点し合否判定を行ってきた当事者です。医療に関する小論文で「治療が大切だと思います」という個人的見解で終わる答案と、公衆衛生・予防医学という社会医学の視点で論証した答案の評価の差を、審査側として繰り返し経験してきました。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 医療・公衆衛生の小論文

東京大学・京都大学・慶應義塾大学医学部・奈良県立医科大学の推薦入試では、「予防医学の重要性を論じよ」「感染症対策の在り方を論じよ」という小論文が出題される。一次予防・二次予防・三次予防という公衆衛生の枠組みで論証できる受験生は、採点者（大学教員）に「社会医学の視点がある」と評価される。

② 生活習慣病・がん対策の論述

「生活習慣病を減らすためにどうすべきか」という問いは、医学部・看護学部推薦入試で頻出である。治療だけでなく予防・環境整備という視点で答えられる受験生は、一次元的な答案との差が歴然とする。

③ 面接・口頭試問での医療政策問題

「医師として予防医学にどう取り組むか」という問いは、医学部面接で定番である。公衆衛生の概念を使って答えられる受験生は、採点者（大学教員）の高い評価を得る。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
東京大学・慶應義塾大学 医学部	公衆衛生・予防医学の小論文	社会医学の枠組みが感想論述との差を生む
奈良県立医科大学・横浜市立大学 医学部	地域医療・予防医学の論述	一次～三次予防の視点が論証の深みを与える
看護学部・公衆衛生系（全般）	生活習慣病・がん対策の論述問題	予防医学の視点が治療だけの答案と明確に差をつける
医学部推薦・総合型選抜（全般）	「予防医学にどう取り組むか」型の口頭試問	公衆衛生の概念で答える受験生として際立つ

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

医療の小論文を「治療が大切」という個人的見解で書く受験生は、採点者が求める「社会的視点」を示せない。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）医療問題を公衆衛生・予防医学の枠組みで論述できる、（2）一次～三次予防という具体的な概念を答案に使える、（3）面接で「社会医学の視点がある受験生」として評価される、という変化が起きる。

何十年も医学部の小論文・面接を審査してきた清光学院の講師陣は、「個人的見解で終わる答案」と「社会医学の視点で論証した答案」の評価の差を採点者として知っている。